

No.77 contents

- 2 第105回記念二科展を迎えて 〈絵画〉第105回記念二科展 総括
- 3 〈絵画〉第105回記念二科展の展示について
第105回記念二科展 授賞式・受賞者一覧
- 4 〈絵画〉第105回記念二科展 受賞作品一制作の視点 受賞作品
- 5 〈絵画〉新会員紹介 〈彫刻〉新会員紹介
- 6 〈絵画〉第105回記念展 展示室から
- 8 〈彫刻〉総評 受賞作品一制作の視点
- 9 〈彫刻〉受賞作品寸評
- 10 2022春季二科展予告・選抜出品予定者
帝国ホテル二科サロン 公益社団法人二科会 役職一覧
- 11 計報 第105回記念二科巡回展
- 12 ウクライナ作家との文化交流展 トピックス
事務局だより 編集後記



秋季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
<https://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646
 E-mail：nika@nika.or.jp



105TH NIKKA ART EXHIBITION 2021

第105回記念 二科展を迎えて

田中 良

第105回記念二科展がコロナ禍の中にあっても無事に初日を迎えることが出来たことは、役員の方断と皆様の日々の努力によるものと感謝申し上げます。

オープニングセレモニー・ギャラリートーク・懇親会やイベント等は全て中止となった第105回二科展は、作品展示一つに力を注いだ、シンプルながらも、展示にひと工夫の跡がみられ、爽やかな展覧会となった。

これからの二科展発展を永遠に続ける為には、常に思い切った若手の育成と、会員・会友の日々の努力が問われ続けられる。身の引き締まる思いである。



1階 絵画・彫刻 入口



絵画部 審査会 2021年8月24日

第105回記念二科展 総括

生方純一

第105回記念二科展はコロナ禍のため1年延期されて開催されました。

この間、国内でも多くのイベントやお祭り、学校行事まで中止や延期になり、春季二科展も中止せざるを得ないなど、関係者はじめ出品者も戸惑いの期間を過ごしました。

本年も何度となく緊急事態宣言が発令され、ワクチ



絵画部 1階 第2室

ンの接種も当初は混乱がありました。そんな状態で今年も本展の開催が危ぶまれ、頻繁な理事会やリモートによる連絡会議などともに会員・会友・出品者への連絡や通知なども複雑になり、お願ひしている協力会社との契約など、事務局の対応も煩雑を極めました。

不確かな状況下で、当初の予定通りの日程で本展の搬入の受付が始まり、危惧していた応募点数は若干減少しましたが、ステイホームということもあってか、じっくりと制作に取り組んだ様子がかがえるような、良い作品も多かったように感じました。

審査は密を避けるということと審査会場への人数制限をして、今回は理事と監事と記録係、チェック係、データ係など、まさに少数精鋭で長時間にわたり取り組んでいただきました。

少数であることから間違いや不公平がないようにと慎重に作業をしていただき

ましたが、見事な連携で問題もなくスムーズに進められたと思います。

また、会場構成はマンネリ化が目立つこともあり、例年の展示から多少のアレンジを試みました。今後とも固定的な展示から流動的に変化を持たせた展示にしていければと考えています。

また、緊急事態宣言中ということもあり、例年行われていた4部によるコラボレーション展示、ギャラリートークやナイトミュージアム、ボランティア活動の一環でもある二科ショップ、及び祝賀パーティーなどのすべての行事を取り止めと致しました。

そうしたことも影響してか入場者は例年より少なめでした。また作品を出品したにもかかわらず会場に來られなかった人もいました。その反面、長い間お待ちされたにもかかわらず熱心なファンも多く、関係者一同は大いに励まされました。

緊急事態宣言下4部門の協力も順調で感染者を一人も出さずとなく、最終日を迎えることが出来ました。開催にご協力いただいたすべての方々に御礼申し上げます。有難うございました。

第105回記念二科展の展示について

香川 猛

第105回記念二科展の絵画部の展示は、コロナ禍の現状を踏まえて、急激に変更することを避けて、例年行われている展示方針を推し進めた。展示効果の点から作品傾向による具象系と抽象系の二つに分けての展示方針を強めた。

事作品、13室に旧九室会（新鋭作家）の作品を展示するパターンが長く続き、刷新する要望が多くなった。そこで年功・役職のしほりを撤廃し、作品傾向で展示する方針を打ち出した。

1室は「二科を代表する鮮度の高い作品」、2室は「重鎮と功労者の作品」、3・4・8室は「鋭気に満ちた次世代作家の作品」、12室は「新会員を中心に若手作家の作品」、13室は「大作を交えて彩を添える作家の作品」、その他「年々努力を惜しまないベテラン作家の作品」等々、新しい展示を試みた。

コロナ禍にあつて出品者や出品点数が減った中で、感染対策を万全にし、第105回展が開催でき、展示の工夫でスマートな鑑賞し易い展覧会ができたこと。素晴らしいと思います。



絵画部 1階 第9室

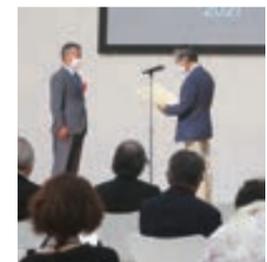
第105回記念二科展 授賞式

9月1日(水) 14:00

国立新美術館2階企画展示室にて、リモート出席の受賞者も加わり執り行われた。



絵画部・須藤愛子会員



彫刻部・宮澤光造会員

第105回記念二科展 受賞者

- | | | | |
|--|---|--|---|
| <p>二科賞
堀谷 莉恵〔熊本〕</p> <p>第105回記念大賞
中澤 純代〔神奈川〕</p> <p>パリ賞
該当者なし</p> <p>SOMPO美術館賞
平林 直哉〔鹿児島〕</p> <p>上野の森美術館奨励賞
野口 晃〔東京〕</p> <p>会員賞
飯田 由美子〔北海道〕
大築 笙子〔北海道〕
酒井 とし子〔埼玉〕
谷口 貞久〔奈良〕
村山 成夫〔新潟〕</p> <p>会友賞
猪立山 三鈴〔福岡〕
上田 有見子〔大阪〕
内木 孝志〔大阪〕
加藤 弘子〔京都〕
木村 信子〔京都〕
倉本 郁夫〔広島〕
小原 禎二〔神奈川〕
清水 尚子〔神奈川〕
武部 美智子〔青森〕
田中 とも恵〔和歌山〕
田上 俊一〔熊本〕</p> | <p>内閣総理大臣賞 須藤 愛子〔神奈川〕</p> <p>文部科学大臣賞 宮澤 光造〔東京〕</p> <p>東京都知事賞 石橋 国夫〔滋賀〕</p> <p>(絵画部)</p> <p>増田 裕成〔兵庫〕
矢野 新治</p> <p>特選
朝岡 幸子〔茨城〕
岩田 恵美子〔愛知〕
石見 香賀里〔福岡〕
上原 淳子〔千葉〕
岡野 祐加〔大阪〕
今野 真由美〔神奈川〕
俊野 悦治〔千葉〕
杉戸 順子〔愛知〕
瀧澤 登美子〔兵庫〕
森山 麗子〔兵庫〕
矢島 初子〔兵庫〕
山浦 はるみ〔千葉〕</p> <p>第105回記念賞
相原 俊幸〔神奈川〕
大賀 康治〔神奈川〕
吉賀 正治〔茨城〕
川崎 英二〔福岡〕
中村 弘道〔東京〕
中村 則道〔東京〕
番場 美和子〔新潟〕
三浦 薫子〔東京〕
山本 知子〔鳥取〕
米村 保明〔熊本〕</p> <p>二科新人賞
春木 凛〔大阪〕</p> | <p>新人奨励賞
嵐 蒼樹〔石川〕
飯島 彩子〔東京〕
吉田 瀬七〔宮城〕</p> <p>会員推薦
稲増 克彦〔奈良〕
今村 恵利子〔熊本〕
片岡 佐智子〔千葉〕
金折 文男〔広島〕
蒲田 宏〔神奈川〕
合田 紘露胡〔愛知〕
竹淵 直美〔埼玉〕
津田 佐千子〔石川〕
縄井 かつみ〔鹿児島〕
平林 直哉〔鹿児島〕</p> <p>会友推薦
井川 誠一〔大阪〕
池杉 拓海〔神奈川〕
石川 昭司〔山梨〕
大西 篤彦〔茨城〕
岡山 芳昭〔福岡〕
川口 英世〔東京〕
古賀 英世〔愛知〕
小賀 治郎〔滋賀〕
島崎 尚輝〔京都〕
坪田 紗香〔石川〕
中澤 純代〔神奈川〕
西澤 裕香〔石川〕
野上 夏希〔熊本〕
道野 美代子〔滋賀〕
宮上 恵美代〔和歌山〕</p> | <p>(彫刻部)</p> <p>向井 博〔愛知〕
山尾 ようこ〔大阪〕
森圭子〔宮手〕
山田 杏子〔新潟〕
横山 恵子〔神奈川〕</p> <p>二科賞
平良 光子〔神奈川〕</p> <p>第105回記念大賞
長谷川 聡〔神奈川〕</p> <p>ローム賞
該当者なし</p> <p>彫刻の森美術館奨励賞
齋藤 玲奈〔埼玉〕</p> <p>会員賞
日置 万里〔東京〕
宮路 久子〔茨城〕</p> <p>会友賞
稲葉 朗〔東京〕
澤田 志功〔埼玉〕</p> <p>特選
井上 幸夫〔群馬〕
川口 三千雄〔東京〕</p> <p>第105回記念賞
該当者なし</p> <p>会員推薦
カッソ ユキコ〔東京〕
中山 憲雄〔愛知〕</p> <p>会友推薦
井上 なぎさ〔神奈川〕
井上 光夫〔群馬〕
平良 幸子〔神奈川〕
玉田 真理〔東京〕</p> |
|--|---|--|---|

絵画部 新会員紹介



稲増 克彦

Cross connection 2021-3



片岡 佐智子

人形3

描きたいのはいつも人間、機械やプラントと組合せて画面を展開、悲しみと絶望の中、毅然とまた立ち上がる人の決意を表現しました。

第93回 特選/第95回 会友推挙
第97回 会友賞/第105回 会員推挙



今村 恵利子



ゆらぎ1902

なかなか思い通りに描けませんが見える物と見えざる物との出会いの場がキャンバスであり如何にそれを表現出来るか苦心しています。

第99回 損保ジャパン日本興亜美術財団賞
第101回 二科賞・会友推挙
第102回 会友賞/第105回 会員推挙



蒲田 宏



巡礼の道

地球には果てがあるのか、ないのか。地平線の向こうには更に未知の世界が広がっているように思える。それを求める心の「巡礼の道」。

第95回 特選/第98回 会友推挙
第101回 会友賞/第105回 会員推挙



金折 文男



繋ぎたい港町(3)

題材とする風景の奥にあるものを感じ、合わせて表現できればと。主に画面構成、色彩、トーンに注力。加えて省略の間も追求課題か？

第95回 特選/第99回 会友推挙
第101回 会友賞/第105回 会員推挙



合田 紘露胡



樹C

樹の生命力の強さを、水墨で、樹齢何百年の樹を抽象画、具象的に表現してみました。

第97回 損保ジャパン美術財団賞
第98回 会友推挙/第100回 会友賞
第105回 会員推挙



津田 佐千子



東風

笑う山野は同胞達の鼓動を感じる場所。線の数は越冬した同志の数だから沢山引き、常に視点は鼓舞し続けられる崇高な自然にある。

第96回 新人奨励賞
第99回 会友推挙/第103回 会友賞
第105回 会員推挙



竹淵 直美



サロメとユディト

人物の周りに何も無い空間を作ることでその瞬間の緊張感、人物の内面との関係性を表現できればと思っています。

第95回 特選
第97回 損保ジャパン美術財団賞・会友推挙
第98回 会友賞/第105回 会員推挙



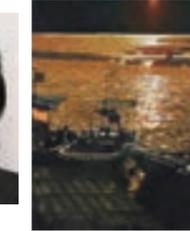
縄井 かつみ



静か

初入選以来、「女性像」の表現を追求しています。今回は、謎めいた女性の心情を、美しいグレーの世界観で表現してみました。

第85回 特選/第90回 会友推挙
第103回 会友賞/第105回 会員推挙



平林 直哉



時の港一惜愛

「この景色の何に惹かれたのだろうか」私自身の心の特性や本質を探究したいという想いで制作しています。

第100回 特選/第101回 会友推挙
第102回 会友賞
第105回 SOMPO美術館賞・会員推挙



カツノ ユキコ

自分の意識を内側に向けた時に、泉のように奥底から湧き溢れてくるものがある。意識を集中させるとそれは様々な形に変化していく。私にとって彫刻とは内なる精神と外なる現実を繋ぎ交流させてくれるもの。これからの内外交流を探索していきたい。

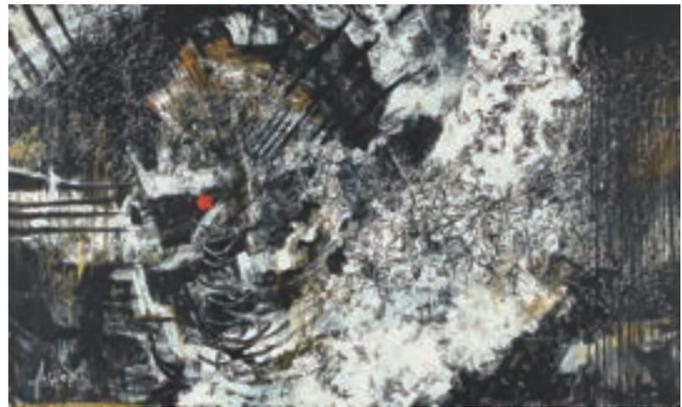


中山 憲雄

初出品から45回目！会員推挙の連絡に驚きました。そして感謝の念と緊張感でドキドキしました。これからは会員に相応しい作品が期待されます。新鮮で密度高くユーモアのあふれる金属彫刻に挑戦したいと思います。又東海の運び屋としても活躍していきたい。



東京都知事賞 気配 F200 石橋 国夫



内閣総理大臣賞 Le Vent(風) 194×324 須藤 愛子

受賞作品 制作の視点

内閣総理大臣賞

須藤 愛子

創作は常に創り手の内部からの得体の知れない何者かが噴出するそのものと思っている。二科会の先生方の日頃よりの御教示の賜物であり、今回は愛しの猫ミユウからの贈り物でもあるとも考える。これからの修行の道は一層厳しいものとなると思う。

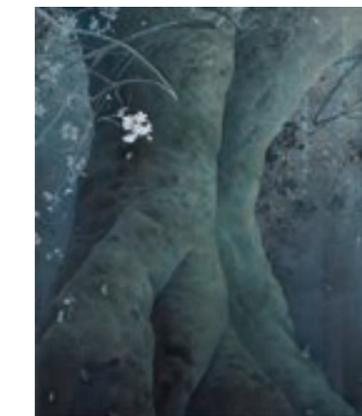
東京都知事賞

石橋 国夫

「気配」という見えない物を画面に表現することを目指しています。コロナ禍では、行動制限により画面と対話する時間が増え、どの様に絵具を定着するかを楽しむことができました。また、今後の制作を見直す機会でもありました。

第105回記念二科展 受賞作品

二科広報チャンネルで受賞作品紹介の映像が配信されています



第105回記念大賞 レクイエム F100 中澤 純代



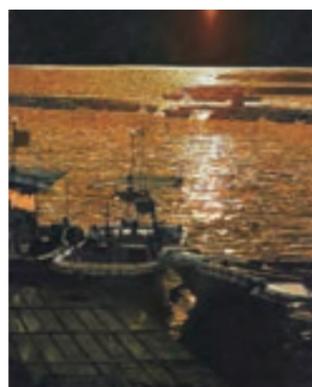
二科賞 心Ⅲ F100 堀谷 莉恵



二科新人賞 碧をまとうⅠ F80 春木 凜



上野の森美術館奨励賞 東京スカイツリーからの眺めⅠ F100 野口 晃



SOMPO美術館賞 時の港一惜愛 F100 平林 直哉

第105回記念二科展—展示室から 2F~3F

長くてながい 我慢の日々、改め て、誰に気兼ね もなくキャンパス に向かえる有難 さをつくづく感じ る。とはいえ、発 表の場をほとんど 失ったこの2年近 くは、今も私たち に喪失感を与え続 ける。その負の感 性を、自身のなか で、どのように咀嚼 して乗り越え、 描こうとしたか、 会場を見て廻るう ちに、それぞれの 姿が垣間見られた 気がしたのである。

注目した作品は 今村恵利子「未来への咆哮」 大樹をモチーフに、独自の造形表現を創りだし安定感がある。 金折文男「繋ぎたい港町(3)」 拡がりのある構成とビビットな色彩表現に独特のリズムを持つ。 平林直哉「時の港」 惜愛」 何気ない漁港を切り取って緻密に描き込む、光の捉え方が魅力。 堀谷莉恵「心III」 深みのある色彩と大胆な構成、独特の灰汁を持った表現がいい。 中澤純代「レクイエム」 暗い芒とした空間に人体を想わせる桜の木、不思議な心象風景。 また、アフリカを取材し14点出品した大西正昭の制作意欲は特筆したい。 大臣賞、会員賞などが決まり、審査がすべて終わった。そして、その対象から外れた第104回展での会員推挙、上石直美、有馬広文、石川由巴子、小野由紀子、渋谷良子、田中節子、三宅敦子の作品が紹介された時

この度3階展示室を中心に総評をとの依頼を受けました。3階は作品数も多く、2段架けも多く、やや雑多なイメージもたれていたが、今回少ない人数で、急ピッチの展示作業にもかかわらず、見せ方を工夫し、見やすいスッキリとした壁面になったのではないかと思えます。 まず目を引いたのは、入口を入ったすぐの広い壁面の受賞作です。上野の森美術館奨励賞の野口晃「東京スカイツリーからの眺め」は、薄い鉛筆で細やかに描かれた都市風景、ところどころに淡く彩色がなされていきます。中央に大きな面積でブルーが塗ってある

破綻なく画面をまとめており、構成員もすぐれ安定した実力を感じさせます。 3階展示室は、U35の展示コーナーを設けるなど、若手育成にも力を入れています。新人奨励賞を受賞した風倉樹「Gintu」は、雑多なものごちゃごちゃ描いてあり、得体の知れない物が天にまで溢れた世界が、不気味ですらあるのですが、その逆になぜか、懐かしい、ちょっとわくわくドキドキ！そこに踏み入ってみたい気にもなるのです。若い才能に期待、これからもGintuしてもらいたい作家です。 吉田紗知「収縮」は、人物を横から描いた作品ですが、一見水彩でにじみをつかった作品のように感じられます。近づいて見ると、偶然にじんだのではなく、意識的ににじませたように描かれています。手が中央にだらりとさがっているのですが、これがどうやら左手ではないような気がしてきます。手の指を見ると右手のようでもあるのです。そうすると人体の構図がいろいろに違ったように想像してしまうのです。液体が溶けだし全体を覆って

いるようにも思えてきます。こうなると必要以上の右側の空間が意味ありげに見えてきます。見る人の想像力を掻き立てる不思議な作品です。 前回、二科新人賞を受賞した上林泰平「物語はここから始まる」は、昨年の作品からさらにパワーアップ荒々しい線描部分とそれに負けない絵具を盛り上げた迫力あるバック、曲線と幾何学的な直線が不思議な世界を作り出しています。まさに「物語はここから始まる」予感を感じさせます。 また今回、堅牢で卓越した描写力をしめした風景画も目を引きました。第105回記念賞の中村弘道「夜明け

の街角・Casa de Musica」 特選を受賞した山浦はるみ「光り満ちて」、山本和夫「老蔵と蛙」、前川普佐雄「夏の奥多摩」、関谷登「寂寥」等で、鑑賞者に、深い安心感・安らぎを与えてくれる実力派です。 二科会趣旨の中に、「流派の如何を問わず新しい価値の創造者は拔擢され待遇されるであろう」とありますが、今や価値観が多様化した時代に個人個人がまちまちにいろいろなスタイルでいろいろな思いで作品制作しているわけですが、「新しい価値」とは？と考えてもなかなか答えは見つかりそうもありません。私は、こんなことを考えてみ



出月智子



川崎英世



上林泰平



吉田紗知



山本和夫



山浦はるみ

会場にて 作品寸評

田浦哲也

「Everything is changing」 同じく会友推挙の出月智子「La vie 6」等の作品は、色の少なさ・素材としての弱さをカバーして余りある魅力を放っていたように感じます。

「新しい価値」とは？と考えた作品を細かく見て新しい価値の創造者の萌芽を数多く感じました。未来は明るい。

感じていること、感じた事

中原史雄

長くてながい 我慢の日々、改め て、誰に気兼ね もなくキャンパス に向かえる有難 さをつくづく感じ る。とはいえ、発 表の場をほとんど 失ったこの2年近 くは、今も私たち に喪失感を与え続 ける。その負の感 性を、自身のなか で、どのように咀嚼 して乗り越え、 描こうとしたか、 会場を見て廻るう ちに、それぞれの 姿が垣間見られた 気がしたのである。

注目した作品は 今村恵利子「未来への咆哮」 大樹をモチーフに、独自の造形表現を創りだし安定感がある。 金折文男「繋ぎたい港町(3)」 拡がりのある構成とビビットな色彩表現に独特のリズムを持つ。 平林直哉「時の港」 惜愛」 何気ない漁港を切り取って緻密に描き込む、光の捉え方が魅力。 堀谷莉恵「心III」 深みのある色彩と大胆な構成、独特の灰汁を持った表現がいい。 中澤純代「レクイエム」 暗い芒とした空間に人体を想わせる桜の木、不思議な心象風景。 また、アフリカを取材し14点出品した大西正昭の制作意欲は特筆したい。 大臣賞、会員賞などが決まり、審査がすべて終わった。そして、その対象から外れた第104回展での会員推挙、上石直美、有馬広文、石川由巴子、小野由紀子、渋谷良子、田中節子、三宅敦子の作品が紹介された時

破綻なく画面をまとめており、構成員もすぐれ安定した実力を感じさせます。 3階展示室は、U35の展示コーナーを設けるなど、若手育成にも力を入れています。新人奨励賞を受賞した風倉樹「Gintu」は、雑多なものごちゃごちゃ描いてあり、得体の知れない物が天にまで溢れた世界が、不気味ですらあるのですが、その逆になぜか、懐かしい、ちょっとわくわくドキドキ！そこに踏み入ってみたい気にもなるのです。若い才能に期待、これからもGintuしてもらいたい作家です。 吉田紗知「収縮」は、人物を横から描いた作品ですが、一見水彩でにじみをつかった作品のように感じられます。近づいて見ると、偶然にじんだのではなく、意識的ににじませたように描かれています。手が中央にだらりとさがっているのですが、これがどうやら左手ではないような気がしてきます。手の指を見ると右手のようでもあるのです。そうすると人体の構図がいろいろに違ったように想像してしまうのです。液体が溶けだし全体を覆って

に使うこと。あと筆などの画材も再点検してみる。それだけでも画面はすっかり見違えるはず。 毎年のことだが、国立新美術館に、約1,200点の絵画が展示される。そのなかで自分の作品が、どう見えるか、どう伝わるかをよく考えてみる。もう一つ、ダメ元で思いっきりよく描くこと。「やつたるでー」の精神で。誰に頼まれたわけでもなく、自分のために描いているのだから。



絵画部 2階 第1室



絵画部 1階 第13室



絵画部 3階 第1室



絵画部 3階 第12室

第105回記念二科展—展示室から 1F~2F



特選 森のいる場所 川口 三千雄



第105回記念大賞 水母のように 長谷川 聡



会友賞 太陰暦 2021 澤田 志功



会友賞 Dyno 2 稲葉 朗



特選 2021、夏 井上 幸夫



彫刻の森美術館奨励賞 果報者 齋藤 玲奈



二科賞 Pieta 平良 光子



彫刻部 集合写真

彫刻部 総評

島田 紘一 氏

第105回記念二科展が9月1日から13日まで国立新美術館において開催された。実際は去年が105回記念展であったが、コロナ禍の影響で1年間の延期を余儀なくされた。今年は果たして開催されるのか再度の延期になってしまおうのか、不安を伴う中で制作だったであろう。出品者や大作の減少が懸念されたが、展示陳列を行ってみると、初出品作も多く、新鮮な明るい会場となった。

美術館の要請もあり、二科会として絵画部入口から彫刻部出口への一方通行を決めた。そのため彫刻展示室へは直接入場が出来なくなり、新たな動線を作ることとなった。

今回は二科賞、第105回記念大賞を出し、受賞作品をバランスよく全会場に配置しながらの会場構成がしてある。絵画部から彫刻部1

室に入って行くと、力強い大作がスペースを構成している。そこから野外展示場の作品群へと向かう。コロナ禍の影響が作品数が少ないように感じるがゆつたりとした空間は気持ちが良い。野外から休憩室の巡回展用の小品をみながら2室に入ると3室、4室、5室から出口まで見渡せる広い空間が開ける。小品を展示するスペースを設け、大きい作品からの圧迫感を受けないよう配慮してある。一つの傾向作品で固まらぬように配置した展示は違和感なくのびのびと広がっている。壁面との距離を取ったことで、作品の後ろにもゆとりが生まれ、中央の大作との調和が感じられる。今回、コロナ禍の中にもかかわらず、1年間のプランクを全く感じさせない会場を観た時、二科会彫刻部の力を改めて認識したところである。



文部科学大臣賞 空の話 宮澤 光造



会員賞 sun pillar 日置 万里



会員賞 月下 宮路 久子

受賞作品

制作の視点

文部科学大臣賞

宮澤 光造

制作で肝心な新しい表現や価値の創造。その「新しい」という言葉にいつも落ち込まれる。代り映えのない自分の仕事。けれども自分の作品に真剣に向き合っていればこそ、そう簡単に着替えることはできない。自分にとっての精一杯が、「新しい」の種と信じる。

会員賞

日置 万里

昨年中止となった二科展の時期に偶然サンピラー(太陽柱)を見た。美しい自然現象に息を呑んだ。時間に追われ慌ただしく動いていた私は大切な事を忘れていたような気がした。どんな状況でもしなやかに強く次の一歩を踏み出す形を造りたいと思った。

会員賞

宮路 久子

かつての古墳文化の工人たちの手法に倣い、練土を輪状に積み上げ、薪で焼成する仕事をしています。仰ぎ見る月。それは時に慈しみの光を、時に氷の冷たさを投げ掛け、永遠の謎を問い掛ける。

無心に、無欲に、真剣に仕事に向き合ってゆきたい。

会友賞

稲葉 朗

第105回記念大賞

長谷川 聡

動きの中にある一瞬の輝きや力強さをテーマにボリング選手を制作した。片手で崖に飛びつき、さらに両手で岩を掴もうとしている場面の中に、高みへと挑む精神や肉体の力強さを表現した。

会友賞

澤田 志功

万物が持つ自然律の美に注目して制作しています。「太陰暦2021」は彫刻のフォルムというより、ユニット作品としての空間構成に主軸を置きました。

以前からテーマにしている「月齢」をモチーフに2羽の兎と列石で何らかのメッセージを発信しました。

受賞作品寸評

二科賞

平良 光子

ゆったりと伸びやかな体躯をした二匹の犬科の獣が寄り添う姿。そこには、荒々しい気配を感じさせること無く、観るものを魅きつける静かな空気を纏っている。作者のもつ生き物への想いが、大きさに負けることなく、かたちへと結実したように思う。(信時 茂)

(信時 茂)

(津田 裕子)

「太陰暦2021」は彫刻のフォルムというより、ユニット作品としての空間構成に主軸を置きました。

彫刻の森美術館奨励賞

齋藤 玲奈

コロナ禍の時間を無駄にしない作品がそこにある。海亀の浮揚感や、釣っているアングルの杵の処理の未熟さを指摘する事もできるが、純粋な表現欲、制作欲で造られた作品を観るとはばかられる。無心に没頭したであろう事がうにじみ出ている佳作であろう。(佐々木 至)

(佐々木 至)

特選

川口 三千雄

不思議な存在感を放つ白い塊は大地や森の生き物を表わし哀しみや怒りを宿している。作品とのやりとりで作者が石粉粘土の造形に試行錯誤する姿が見えてくる。創作の原点とも言える溢れる想いがエネルギーと成った力作です。(津田 裕子)



特選 井上 幸夫
バツタの集団を抑制するかの様に立つ少女。何処へ行こうとしているのか。作品からは静かな緊張感を感じます。少女の手足の彫りが着彩で皮膚感が強くなっているのが気になりますが、井上氏の得意の少女像に彫刻的に面白いバツタが加わり物語性を感じました。(廣瀬友彦)

(廣瀬友彦)

2022

春季二科展

新企画で拡大開催

令和4年4月19日
～5月2日
東京都美術館

2022春季二科展は展示スペースを2倍に広げ、期間も延長して開催となります。絵画・彫刻の104回・105回二科展受賞者を中心に選抜した60名と会員作品を展示し、加えて絵画部5名のエントリー作家の個展形式特別展示室、絵画理事のフリースペース展示など、新しい企画で開催します。今までにない実験的な試みの新鮮な会場が秋の本展へ向けての制作につながる刺激となるよう、春季二科展にご期待ください。

個展ブース出品者

- 有馬 広文〔鹿島〕
石川由巳子〔宮城〕
金折 文男〔広島〕
日比野恵美〔愛知〕
坪田 裕香〔石川〕

2022春季二科展 選抜出品予定者

彫刻部

- 河野 眸〔東京〕 前川晋佐雄〔埼玉〕 稲葉 朗〔東京〕
内木 孝志〔大阪〕 野口 晃〔東京〕 荻野 弘一〔新潟〕
増田 裕成〔兵庫〕 朝岡 幸子〔茨城〕 長谷川 聡〔神奈川〕
黒川美紗子〔愛媛〕 石見香賀里〔福岡〕 澤田 志功〔埼玉〕
鈴木真木子〔茨城〕 瀧 進〔静岡〕 井上 幸夫〔群馬〕
堀谷 莉恵〔熊本〕 俊 悦治〔千葉〕 平良 光子〔神奈川〕
安坂 伸司〔東京〕 上原 淳〔千葉〕 玉田 真理〔東京〕
岩田 一男〔山口〕 岩田恵美子〔愛知〕 (一般)
中村 紘子〔東京〕 杉戸 順子〔愛知〕 佐藤しず子〔宮城〕
新川 久子〔岐阜〕 岡田祐加子〔大阪〕 増田 麻由〔神奈川〕
川人 和行〔東京〕 森山 麗子〔兵庫〕 増田 由美〔神奈川〕
木村 信子〔京都〕 今野真由美〔神奈川〕 重清 美咲〔東京〕
倉本 郁夫〔広島〕 矢島 初子〔東京〕 齋藤 玲奈〔埼玉〕
清水 尚子〔神奈川〕 山浦はるみ〔千葉〕 川口三千雄〔東京〕
福島 菜菜〔京都〕 長澤登美子〔山梨〕
田中とも恵〔和歌山〕 森本 啓子〔広島〕
田上 俊一〔熊本〕 若松由利子〔石川〕
中田 登北道 佐藤 雅也〔石川〕
矢島 和子〔神奈川〕 鈴木 裕己〔岩手〕
安 新治〔茨城〕 小幡 敏子〔群馬〕
上田有見子〔大阪〕 櫻井 篤子〔静岡〕
鈴木 文明〔東京〕 磯貝 享平〔大阪〕
猪立山三鈴〔福岡〕 土屋真理子〔愛知〕
加藤 弘子〔埼玉〕 河村 尚善〔愛知〕
武部美智子〔青森〕 須佐美恵子〔大阪〕
田原 馨〔広島〕 米村 保明〔熊本〕
日比野恵美〔愛知〕 野口 一夫〔埼玉〕
小南 治次〔滋賀〕 野口 泰平〔長野〕

絵画部

- 河野 眸〔東京〕 前川晋佐雄〔埼玉〕 稲葉 朗〔東京〕
内木 孝志〔大阪〕 野口 晃〔東京〕 荻野 弘一〔新潟〕
増田 裕成〔兵庫〕 朝岡 幸子〔茨城〕 長谷川 聡〔神奈川〕
黒川美紗子〔愛媛〕 石見香賀里〔福岡〕 澤田 志功〔埼玉〕
鈴木真木子〔茨城〕 瀧 進〔静岡〕 井上 幸夫〔群馬〕
堀谷 莉恵〔熊本〕 俊 悦治〔千葉〕 平良 光子〔神奈川〕
安坂 伸司〔東京〕 上原 淳〔千葉〕 玉田 真理〔東京〕
岩田 一男〔山口〕 岩田恵美子〔愛知〕 (一般)
中村 紘子〔東京〕 杉戸 順子〔愛知〕 佐藤しず子〔宮城〕
新川 久子〔岐阜〕 岡田祐加子〔大阪〕 増田 麻由〔神奈川〕
川人 和行〔東京〕 森山 麗子〔兵庫〕 増田 由美〔神奈川〕
木村 信子〔京都〕 今野真由美〔神奈川〕 重清 美咲〔東京〕
倉本 郁夫〔広島〕 矢島 初子〔東京〕 齋藤 玲奈〔埼玉〕
清水 尚子〔神奈川〕 山浦はるみ〔千葉〕 川口三千雄〔東京〕
福島 菜菜〔京都〕 長澤登美子〔山梨〕
田中とも恵〔和歌山〕 森本 啓子〔広島〕
田上 俊一〔熊本〕 若松由利子〔石川〕
中田 登北道 佐藤 雅也〔石川〕
矢島 和子〔神奈川〕 鈴木 裕己〔岩手〕
安 新治〔茨城〕 小幡 敏子〔群馬〕
上田有見子〔大阪〕 櫻井 篤子〔静岡〕
鈴木 文明〔東京〕 磯貝 享平〔大阪〕
猪立山三鈴〔福岡〕 土屋真理子〔愛知〕
加藤 弘子〔埼玉〕 河村 尚善〔愛知〕
武部美智子〔青森〕 須佐美恵子〔大阪〕
田原 馨〔広島〕 米村 保明〔熊本〕
日比野恵美〔愛知〕 野口 一夫〔埼玉〕
小南 治次〔滋賀〕 野口 泰平〔長野〕



- 第1期(1月11日)～4月5日
須藤愛子 今村恵利子
合田紘露胡 平林直哉
木村信子 田上俊一
上田有見子 武部美智子
川口福代 春木 凜
第2期(4月5日)～7月5日
谷口貞久 酒井とし子
片岡佐智子 竹淵直美
内木孝志 倉本郁夫
増田裕成 猪立山三鈴
池杉拓海 川崎英世
野口 晃
第3期(7月5日)～10月4日
石橋国夫 村山成夫
金折文男 津田佐千子
中田 登 清水和子
矢島和子 加藤弘子
出月智子 西 夏希
中澤純代
第4期(10月4日)～1月10日
飯田由美子 稲増克彦
蒲田 宏 縄井かつみ
堀谷莉恵 田中とも恵
安 新治 小原禎二
井川誠一 岡山芳彦
渡邊恵子

帝国ホテル二科サロン

帝国ホテル二科サロンにおいて第105回二科展受賞者を中心に小品展を開催しています。
・会場II帝国ホテルインペリアルタワー・ギャラリー
〔入場無料〕
2021年
第4期(10月5日)～1月11日
田中 良 山中宣明
嶋 珠世 田浦哲也
横前秀幸 田川絵理
皆川恵子 寺田 眞
佐野明子 岩田 博
2022年
第1期(1月11日)～4月5日
須藤愛子 今村恵利子
合田紘露胡 平林直哉
木村信子 田上俊一
上田有見子 武部美智子
川口福代 春木 凜
第2期(4月5日)～7月5日
谷口貞久 酒井とし子
片岡佐智子 竹淵直美
内木孝志 倉本郁夫
増田裕成 猪立山三鈴
池杉拓海 川崎英世
野口 晃
第3期(7月5日)～10月4日
石橋国夫 村山成夫
金折文男 津田佐千子
中田 登 清水和子
矢島和子 加藤弘子
出月智子 西 夏希
中澤純代
第4期(10月4日)～1月10日
飯田由美子 稲増克彦
蒲田 宏 縄井かつみ
堀谷莉恵 田中とも恵
安 新治 小原禎二
井川誠一 岡山芳彦
渡邊恵子

公益社団法人二科会 役職一覧 (令和3年10月末日現在)

代表理事(理事長)	田中 良
常務理事	(絵) 西川 健
理事	(彫) 吉原 宣
監事	(絵) 山崎 明
・参与	(彫) 横尾 明
・名譽理事	(絵) 木田 明
(絵) 島田 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 小坂 明	(彫) 横尾 明
(彫) 野村 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 前川 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 田川 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 附田 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 大隈 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 石井 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 川内 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 藤原 明	(彫) 尾崎 明
(彫) 日工 明	(彫) 尾崎 明
・評議員(彫刻)	本間千恵
・評議員(絵画)	五味 裕子
加味 裕子	森岡 謙二
三谷 弘一	三谷 弘一
粕谷 正一	皆川 恵子
皆川 恵子	瀧 進
入野 美南	濱田 進
濱田 進	堀野 明
堀野 明	江崎 明
江崎 明	佐野 明
佐野 明	戸野 明
戸野 明	山崎 明
山崎 明	一山 明
一山 明	寺田 明
寺田 明	岩田 明
岩田 明	齋藤 明
齋藤 明	須藤 明
須藤 明	鶴岡 明
鶴岡 明	米田 明
米田 明	本間 明
本間 明	津田 明
津田 明	安田 明
安田 明	藤原 明
藤原 明	西川 明
西川 明	市川 明
市川 明	豊田 明
豊田 明	安田 明
安田 明	日置 明
日置 明	事務局補助

宮村 長氏



二〇二〇年六月二十九日逝去 享年79歳
略歴
一九七〇年 第55回展特選
一九七一年 第56回展ローム賞
一九七二年 第57回展会友推挙
一九七五年 第60回展会友特賞
一九八〇年 第65回展会友推挙
一九八六年 第71回展 会員努力賞
二〇一〇年 第95回展 内閣総理大臣賞



神様がお怒りおはせしか、老いておはせしか 第95回展 内閣総理大臣賞

絵画部名誉理事 伊庭新太郎氏が、二〇二二年九月二十七日に逝去されました。
次号で改めまして、追悼記事を合わせて掲載させていただきます。

忘れられない二科人・宮長

二科展を愛した宮村君が2020年6月29日に亡くなった。今は、ちょっと描く気が無くなってと言っていたが、残念な事でした。しかし、絵画研究所、学生時代、二科会とともに歩んだ事は、私にとって大きな財産でありました。
常に、追い越し追い越されの展開でした。私の一年後に二科展に初入選し、私の翌年にはローム賞を受賞し二人の競い合いが始まりました。しかし、会員になりましたのは彼の方が早く、会員努力賞、総理大臣賞も早かった。彼の独特の絵画感、人生観は私などには及びもつかないユニークなものでした。
スケッチなどに同行した時、対象を見つめる鋭い目、描ききった時の満足した姿には、ちょっと近寄り難いものを感じました。旅先には常にスケッチ帳を携帯し、同行の人物描写、風景、夕食の膳を黙々と描いていました。その素早い描写の線は巧みに対象を捉えて、リズムカルに踊る様に美しく彼の制作の神髄に繋がるものがありました。真夏の暑い中、冷房もないアトリエで黙々と制作した作品には描くという執念が感じられたが、そこには嫌味も無くむしろユーモアが感じられた。晩年、作品のテーマはソフトな彼独特の感性による社会風刺にも繋がることがありました。
兎に角、お酒が好きで若い頃からよく飲んでいました。晩年は、もう飲めなくなってきたも我々の飲み会に顔を出してくれて、ノンアルコールビールで人並みに酔っ払い？その場を和ませていたのも彼独特の思いやりであったように思います。毎年の審査では、常宿のホテルに我々と離れ一人で帰り、レストランのウェイターやウェイトレスと会話をしながら食事を楽しんでいました。そのため、こちらが感心するほど彼らの名前を覚えていて、宿泊初日には「誰々さん元気かな」「明日は出社しますよ」の会話から始まったものです。
コロナ禍、少人数で行われた第105回記念二科展の審査は、彼の赤い綿パン姿もなく一層寂しいものがありました。ご冥福をお祈り致します。

萩原 寛子氏



二〇二〇年八月十四日逝去 享年87歳
略歴
一九五七年 第42回展特選
一九六二年 第47回展会友推挙
一九六五年 第50回展 総務長官賞
一九六八年 第53回展会友特賞
一九七〇年 第55回展会友推挙
一九七四年 第59回展 会員努力賞



樹々 F100 第102回展出品作

黒木アヤ子氏



二〇一八年三月十日逝去 享年89歳
略歴
一九八八年 第73回展特選
一九九五年 第80回展会友推挙
二〇〇一年 第86回展会友賞
二〇〇四年 第89回展会友推挙
二〇〇七年 第92回展会友賞



朽ちる F100 第100回展出品作

小林 君代氏

二〇二〇年十二月二十三日逝去 享年80歳
略歴
二〇〇〇年 第85回展特選
二〇〇九年 第94回展会友推挙
二〇一七年 第102回展会友賞

公益社団法人二科会 公式HP
<https://www.nika.or.jp>
出品規約、搬入目録等は二科展ドットコムで閲覧、ダウンロードできます
▶<http://www.nikaten.com/>

第105回記念 二科巡回展

- ◆東海展 令和3年10月5日～10月10日 愛知県美術館ギャラリー
- ◆大阪展 令和3年10月26日～11月7日 大阪市立美術館
- ◆富山展 令和3年11月30日～12月5日 富山県民プラザ
- ◆京都展 令和3年12月7日～12月12日 京都市京セラ美術館
- ◆広島展 令和4年1月11日～1月16日 広島県立美術館 県民ギャラリー
- ◆鹿児島展 令和4年3月5日～3月13日 鹿児島県歴史・美術センター 黎明館
- ◆福岡展 令和4年3月15日～3月21日 福岡県立美術館



第105回記念二科展特別展示 ウクライナ作家との 文化交流展

1階野外彫刻展示場に面した休憩室の光のそそぐスペースに第104回二科展に引き続き、ウクライナ大使館後援による「ウクライナ作家との文化交流展」の展示をしました。

例年のイベント・催事が中止となった会場に明るい花を添える交流展示でした。

■おめでとございませう

常務理事 西健吉先生が鹿児島県の令和3年度県民表彰で、「教育文化スポーツ部門」5部門の一人として、ご受賞されました。

■トピックス

二刀流の活躍

絵画部、彫刻部にそれぞれ作品を搬入し、平面、立体両部門に入選をされた。野口一夫さん(埼玉・73歳)彫刻10回目、絵画2回目的入選。

中村 繁さん(千葉・67歳)彫刻3回目、絵画初入選。表現の領域の広がりがある枠組みを越える作品が今後も続くことを期待します。

「二科栃木支部」が令和3年11月23日に発足。関東1都6県に二科支部が勢揃いです。新支部の発展を祝します。支部長：添野 忠会友

◆出品者の皆様へ

出品作キャンパス裏にはチョークで審査結果が記されています。過去出品作をリメイク、古キャンとして再使用、再出品する場合はガムテープを貼る等、チョーク痕を消す処置をしてください。未発表、オリジナル作品であること、自身の制作の中で認識されるものです。

第105回記念展 概要

搬入点数	105回記念展(昨年比)
絵画・一般	1,941点 (532減)
絵画・会友	789点 (156減)
彫刻・一般	48点 (13減)
彫刻・会友	23点 (9減)
合計	2,801点 (710減)

	入場者 (前回は)
一般当日	2,135人 (3,190減)
前売り券入場	1,518人 (2,773減)
高校・大学	324人 (214減)
チラシ割引	273人 (276減)
チケットぴあ	0人 (170減)
団体割引	0人 (20減)
企画割引	25人 (61減)
新聞社優待券	271人 (1,364減)
有料入場者	4,492人 (8,060減)
無料入場者	28,284人 (48,057減)
入場者合計	32,776人 (56,117減)

事務局だより

令和二年一月より百年に一度という新型コロナウイルスに震撼させられ、その都度、二科会執行部は対応を検討し、最善と思われる方針を選択して来りました。令和二年の春と秋の二科展を開催せずと決議されたからは、文化庁芸術支援申請の為に検討を重ね実現させた3つの事業は、一年たった今、多方面で実を結んでおります。

リモート会議導入はリモート参加可能な授賞式を実現させ、広報二科の刊行は新たな応募者の獲得に、「国立新美術館で輝くためには」の講演会実施とその

展示(遺作含む)	人数(前回は)	点数(前回は)	35才以下	
			出品者数(前回は)	応募・在籍数(前回は)
絵画・一般	656名 (30減)	713点 (11減)	38名 (15減)	38名 (15減)
絵画・会友	213名 (25減)	256点 (44減)	7名 (1減)	7名 (1減)
絵画・会員	164名 (4減)	164点 (4減)	-	-
彫刻・一般	41名 (5減)	45点 (3減)	13名 (1減)	13名 (2減)
彫刻・会友	22名 (10減)	23点 (9減)	0名 (3減)	0名 (4減)
彫刻・会員	48名 (3減)	50点 (12減)	-	-
展示合計	144名 (77減)	1,251点 (83減)	58名 (20減)	58名 (22減)

動画配信は、コロナ禍で二科展が開催できずとも制作の一助となり、今年の第一〇五回記念二科展では、受講者の中からまさしく多くの方が国立新美術館で輝かれました。

全国の支部とのネットワーク、緊急連絡網の整備も確立して参りました。振り返れば、二科会独自の緻密なコロナ感染防止マニュアル作成、二週間前からの健康チェック表記入、手作りのコロナ用パーティション、審査室での空気の流れを促す彫刻部提供の大きな扇風機、食事は黙食、マイボトル持参の水分補給、今でこそよく聞かれるようになってい

2回のワクチン接種と、PCR陰性の証明書提示の徹底。そこまでするの?という声もありましたが、一人の感染者も出さずに二科展を開催、終了できたのは皆様の多大なるご協力があったからこそと思います。マニュアル制作に携わって下さった先生方、そしてそれを遵守し二科展業務に従事して下さった皆様に改めて感謝申しあげます。県をまたいで移動自粛が謳われる中、東京での参加が出来ない先生方も気持ちは常に共にあるという感覚も感じながらのコロナ禍開催の記念展でした。今回からの巡回展では、本展の彫刻のスケール感を知っていただきたいと本展会場の動画を可能な限り上映することにしました。また来年の2022春季二科展は会期も会場も増え、新しい企画も臨みます。コロナによって第一〇五回記念二科展は審査も展示もシンプルを余儀なくされましたが、新たに気づかされた事も多く、プラス思考で次へと繋げていければと思います。

事務局長 埴珠世

編集後記

◆万全の配慮で開催に臨んだ第105回記念展は、シヨップも催事も中止でしたが、作品主体の会場は好評でした。◆作品寸評を1〜3階まで会場案内風にお願いましたが、作品評とともに出品の方へ寄せる期待、想いが伝わるご寄稿を頂けました。◆コロナ禍はテレワーク、オンラインの活用など社会の様々な仕組みや価値観に変化をもたらしました。常態に甘んじることなく、より良い変化、変革の機会と捉えたいと思います。(N)

*今号は12頁までの二科展報と、13〜16頁は会員のみ配布の内報と、別紙の構成となっております。

編集委員

- 委員長(総) 野村 みそら
- 委員(総) 田川 絵理
- 尾崎 ゆき子
- 谷口 貞久
- 上田 友彦
- 廣瀬 快彦

令和三年十一月三十日発行
公益社団法人 二科会
〒160-0022 東京都新宿区新宿4-13-15
東京都新宿区新宿5-01号室
レイフラット新宿 501号室
電話 03-3335-4664
FAX 03-3335-4768